

正副議長就任記者会見 会見録（概要）

日時：平成 20 年 5 月 16 日 15 時 28 分～

場所：議事堂 6 階 603 会議室

（議長）このたび議員の皆様の御推挙によりまして 101 代目の議長に本日就任させていただきました萩野虔一と申します。記者クラブの皆様には何卒よろしくお願ひ申し上げます。岩田副議長とともに県勢の伸展、県民のしあわせのために精一杯働かせていただきますので、どうぞよろしくお願ひを申し上げます。

極めて重責でありますけれども、まず議会改革の検証そして前進に全力を注がせていただきたいと思いますと思っております。

まず当面、この任期中に手がけたいと思うのは、一つは議長任期について議論をして参りたいと思っております。直ちに結論を出すというのは無理かも知りませんが、少し時間をかけて議論をしていただくことと、あるいは、他県の状況等を少し調べもさせていただきまして、できれば議会改革推進会議で議論をしていただいて、一定の結論を出していただきたいと思いますと思っております。

しかし、これは私が 2 年なり 3 年なりという任期をするということではございませんので、その実施時期について私はできれば次の改選後ぐらいからが適当ではないかなと思っておりますけれども、この時期についても議会改革推進会議に委ねて参りたいと思っております。

二つめは、所信表明でも申し上げましたところですが、議提条例について、議決責任という言葉があちこちで言われているところでもございまして、その議決の責任というのは、知事に言わせれば、すべて知事にあるというふうなことをおっしゃっておられているわけですが、議決責任についても一定の議論をしておく必要があるのではないかという思いがございまして、特に議員が提出して制定をした条例につきましては、一度検証をしてみる必要があるのではないかと思っております。特に本当に議員が議決した議決の意思どおりにしっかりと運用されているのかどうかが大変だと思っております。それともう一つがその条例が時代の流れと申しますか、県民の意識の変化、環境の変化とあいまって、今の県民の生活にマッチしているのかどうか、県民の自由な活動を条例によって阻害されていることはないのか、というようなところを調査し検証していくことを進めて参りたい。そのことによって新たな改革の方向、あるいは新たな条例の在り方というのもそこで見出せるのではないかと思っております。

他の議会との交流については、例年やっていることですが、三重県でずっと開催して参りましたので、ちょっと裾野を広げたいという思いが私にあります。三重県だけが何か独走しているという印象をもたれるのはかなわないという思いもございまして、裾野を広げるために、できたら他の県で主催していただいて開いていただくように働きかけをしたいと思いますが、かなわぬ場合は三重県議会でやって参りたいなと思っております。

当面そのようなことと、委員会活動を充実させていきたいと思っておりますので、それぞれの委員会が議員間討議を含めながら、中心になって活動できる環境づくりを進めて参りたいと思っております。当面以上でございます。

(副議長) このたび、議員の皆さまの御推挙によりまして、102代目になるそうではありますが、選ばれました岩田でございます。誠に光栄ではありますが、その責任の重大さにひしひしと痛感をし緊張している次第です。ただいま申されたとおり、識見、人格ともに優れた萩野議長でございますので、議会が公正で円滑に運営されますよう誠心誠意努め、県民の皆さんの負託に応えられるよう、精一杯努力をしていきたいと思っております。いずれにいたしましても、先ほどから議長が申されておりますとおり、いろいろな改革を通じてこれから先、後戻りがないように議長をしっかりと支えていきたいと思っております。

まず、県民の皆さん方に開かれた議会と言われております。私は広聴広報会議の代表ということでありますが、皆さん方に今までお世話になっておりますとおり、これから先も県議会の出前講座等を広聴広報会議の委員の皆さん方にお願ひしながら、もう少しきめ細かにやっていただければなと思っております。

同時にやはり、私ども議会にはいろんなご意見を持っておられる方々が見えます。所信を表明した時も申しましたとおり、この方々が意見を戦わせていただくのは結構だと思いますが、やはり、入口があれば出口があるということで、袋小路にならないよう、これから先、その調整役を努めさせていただくようなことに尽力させていただければありがたいなと思っております。定例会が年2回ということで非常に審議する、議論する場所が多くなって参っておりますので、これから先、議員の皆さん方には自由闊達なご議論をしていただいた中で、私は議長を支えるというおこがましいことではなしに、いろいろな情報交換をしながら、議長を支えて参りたいなというふうに思っておりますので、どうぞ皆さん方にはこれから先もよろしく御厚意を賜りますようお願いを申し上げます。私からのご挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

(質問) 議長にお伺いしたいのですが、議長任期について見直しが必要であると考えられる理由と、議長としては何年ぐらいが適当だと現在お考えでしょうか。

か。

(議長) 本来議長の任期は4年ですけれども、今申し合わせによって1年交代でやっているわけでございます。知事が4年ずっとやる中で、議長が1年交代ということであれば、二元代表制の中でいかなものかなという思いをもっておりまして、本来4年であれば4年ということについては、議論の余地があるだろうと思います。少なくとも2年ぐらいはという思いは持っているところでございますけれども、議員全体で議論していく問題ですから、私が先走って予断を与えるようことはしてはいけないのかなと思っているところでございます。

(質問) お二人にお伺いしたいのですが、今日の選挙でほぼ得票が満票に近い票を得たことについてお考えを聞かせてください。

(議長) 多くの皆様のご理解やご支持を得たことについては本当に感謝を申し上げます。さまざまな議論は今、副議長が申し上げましたとおり、議会でしていくわけですけれども、ともすると政党とかいろんな意見の違いを強調するあまり、ほとんどの議員が一致している部分をおざなりにするというか、違いだけを強調しすぎるということを今まで思わせてきていただいておりますので、違いは違いとして、一致する部分を全体で膨らませていくことが県民の願いに叶っていくことではないかなと。いたずらに対立をあおるのではなく、一致する部分を膨らませていけば、ほとんどの議員が一致する部分が私は7割ぐらいはあるのではないかなと、思っているところでありまして、そういう議会運営をこれから心がけていく上では、今日いただいた多くの皆様のご理解はその土台になるのではないかなと、思っております、大変ありがたいと思っております。

(副議長) 私の方としては、実は今、会派は自民・無所属議員団に属させていただいておりますが、以前はおそらく4年前でしたか、島本副議長からこちらへは私どもの会派からは出ていないように考えております。もちろん二元代表制ということであれば、執行機関と我々ということになると思いますが、こんな中では議長が申されているとおり、議員間でしっかりと議論をした中で対決するところは対決しなければならぬけれども、やはりしっかりと議論だけを進めていけるように、各会派間の調整と申しますか、議員間でいろんな討議をさせていただいた中でやっていかなければ、まず議員の中でいろんなことで対立が起こっているというようなことでは具合が悪いと思っておりますので、これから先、条例等も出てこようと思っておりますが、できる過程においてはやはり先

を見据えて、先程も申しましたとおり、入口があれば、出口をしっかりと見極めていただいた中で議論をしていただきたいと思っておりますので、そんな一助、調整役に立たせていただければと思っております。

（質問）議員任期に関して、もう少し突っ込んでですけど、結局先代議長というか100代議長はこの期間内でできたら複数年としたい。自分のことはおいといて。101代議長については数年というのを実施してほしいというご意向が強いようですけれども。かたや議会改革推進会議の会長でいらっしゃるし、その辺、今の議長としてどう調整されるのか。

（議長）私は前議長とこの件については同じ意見だと思うんです。自分がなかなかこういう立場になってみると自分のために任期を延ばすというふうなとらえ方をされますので、なかなか言いにくいことがございまして、就任直後ですから、少し大胆に来年から2年とか3年とかということではなくて、議会改革推進会議の中で十分に議論していただいて、その方向でまとめていただければなというふうなことを思っているわけでございます。恣意的に2年っていうふうな形で設定するつもりは全くございません。

（質問）今回、議長立候補にあたって、他会派間との調整及び自会派の中で、これは申し合わせどおり1年ととらえていいですか。

（議長）そうです。

（質問）副議長も。

（議長）そのことについて、代表者会議等で今後議論をしていこうという議論はしましたけれども、今の申し合わせどおり私どもは1年だと思っています。

（質問）とりあえず、検証したい議提条例は。

（議長）いえ、全部検証して参りたいと思いますし、いろんなところでご意見も伺っておりますので、どこか勉強会をつくって、あるいは既存の勉強会とかあるいは委員会とかそういうふうなところで議論をしていただくような方向で進めさせていただけたらと思っています。また、会期の問題については、今年2回ですけども、通年制について云々という議論も委員会の中でございまして、これも1回通してやってみて、来年2回終わった段階で、もう一度これ

についても検証を加えさせていただいて、通年にするのか、今のままがいいのか、また別の会期の考え方があるのか、これについても一定の方向性が出せたらと思っております。

また、もう一つ、これも今年度議論をしておくべきだと私は思っているんですけども、次の選挙に向けて県議会の議員の定数の問題。これについても一定の議論をしておくべきではないかと思っておりますので、このことについても、しかるべき委員会とか何かをつくって、まあこれは少し遅くなってもいいと思いますけれども、まだ選挙は3年後でございますので、それまで、最後の1年というわけにはいきませんので、一定の方向性は議論をしておきたいなと思っております。

(質問)ということは、今年、選挙区調査特別委員会が立ち上がる予定なんですか。

(議長)まだそこは議論をしていませんけれども、私としては今年度当初というわけではなくて、後半部分でそのことについて議論する場を設定できたらと思っております。

(質問)あと、100代議長記念という形で始めたマスコミとの定例記者会見については、いかが取り扱われますか。

(議長)これは、皆さんがよろしければ、是非私の方からお願いをいたしたいと思っております。

(質問)じゃお続けになるということで。

(議長)ぜひお願いをしたいと思っております。

(質問)あと、所信表明の時に後ろから支えるリーダーシップもあっていいんじゃないかというようなことをおっしゃいましたが、これは100代議長をみられていて、ちょっとその部分の反省点に立ってということですか。

(議長)そういうふうにとられるのは極めて心外でございます、力量の差でございます。私としては常に、常任委員会がやっぱり中心になっていくべきだろうと思っております、常任委員会が先頭に立って走っていける環境、いろんな立場で役員になっていただいている議会の議員の皆さんがやりやすい環

境、時には先頭に立って引っ張っていかなければならないと思いますけれども、その人たちの活動を強力に支えて推していくというふうなリーダーシップもあっていいのではないかという意味で申し上げたので、前議長云々ということでは決してございません。

(質問) 岩名前議長がおつくりになろうとしている「せんたく」の希望というのは、お二方それぞれの会派の中で入られている方もいますけれども、岩田さんはもう入られているんですね。萩野議長はどうされるのですか。

(議長) 私は参加しておりません。うちの会派でもかなりの数の方が入っておられまして、私のように参加していないこともありますので、こういう種の問題については、それぞれ個人の議員の自由意思で加入したり加入しなかったりということを決めればいい種の問題だと思っておりますので、前議長にもそのように申し上げて、そのような計らいをしていただいたところでございます。

(質問) 議長が入られていない理由は。

(議長) 理由は特にございません。

(質問) 議提条例の見直しについては、すぐにでも勉強会なんかを設けるつもりですか。

(議長) はい。できれば早い機会にこのことについては議論をしていただきたいと思っております。既に他の県に比べて三重県議会はかなりの数の全国2位の議員提出条例をもっていますので、県民の生活に少なからず議提条例が影響を及ぼすというか、かかわっているという部分があると思っておりますので、その部分についてより県民のためになる条例になっていくような検証、そのようなことをしていくことが議会の改革にもつながるし、県民の生活に対しての向上にもつながっていくのではないのかなという思いで、これはできるだけ早くしていきたいと思っております。

(質問) できるだけ早い時期というのは、だいたいどれぐらいですか。

(議長) そうですね。6月議会の終わりぐらいを目途に何らかの勉強会というのをもてたらなと思っております。6月議会といたしますか、今の定例会の会期末ぐらいまでの間に目処がつかないかなと思っております。

(質問) その中では理念条例でいくのか、予算を伴うような実定条例でいくのかそういう問題が当然あると思うが。

(議長) 今ある理念条例も実際の条例も全部含めて一度検証してみることが大事なのではないかと思っております。そのことがやっぱり議決責任とは言わなくても、議会が条例を産みっぱなしで育てないじゃないかという批判もございまして、しっかり育てたり、しっかり条例をしつけていくといいますか県民のために。そういう思いでございます。

(以 上)

15:50 終了